

韓国

成長が鈍化するなか、
政策金利を引き下げ

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 松田 健太郎

E-mail : matsuda.kentaro@jri.co.jp

民間消費が前期比減少

韓国では景気の減速が鮮明になっている。2016年1~3月期の実質GDP成長率は、前期比+0.5%（暫定値、前年同期比+2.8%）と、15年10~12月期（前期比+0.7%）から減速した（右上図）。

需要項目別の寄与度をみると、輸出が前期比（以下同じ）0.5%ポイントと再び減少するなか、輸出に代わるけん引役として成長を支えてきた内需も弱含んでいる。2015年7~9月期以降成長を支えていた民間消費が0.1%ポイントとマイナスに転じたほか、総資本形成も0.3%ポイントと減少した。政府の早期予算執行による公共投資の増加を受けて建設投資が+1.0%ポイントと堅調に推移した一方、企業の収益環境悪化に伴い民間の設備投資が減少した。加えて、在庫投資も0.6%ポイントと景気を下押しする結果となった。

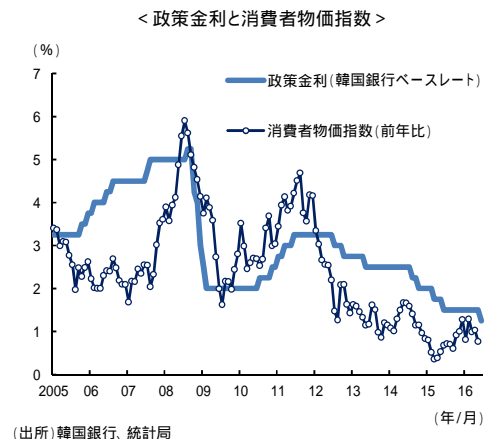
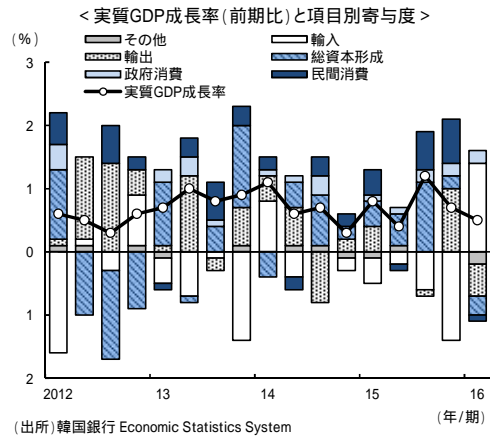
民間消費が減少した背景には、15年10~12月期に打ち出された政府の消費刺激策（個別消費税率の引き下げや大規模セールスの開催）の反動のほか、株価下落による消費者マインドの低下がある。6月末で自動車の個別消費税率の税率引き下げが終了するため、駆け込み需要による消費押し上げが見込まれるものの、5月の消費者信頼感指数は2カ月ぶりに判断の分かれ目となる100を下回る水準まで低下しており、7月以降の消費は駆け込みの反動減も加わり、力強さを欠く展開が予想される。

一方、輸出（通関ベース）は17カ月連続の前年割れとなり、低迷が長期化している。主要品目のうち石油化学製品、自動車などで減少が続いており、中国経済の減速が続く状況下、輸出の回復は遅れる見込みである。

こうしたなか、韓国銀行は6月の金融通貨委員会にて政策金利を1.5%から過去最低水準となる1.25%まで引き下げた（右下図）。これには企業の構造調整による一段の景気下振れを軽減する狙いがあると考えられる。

企業の構造調整が急務

輸出の低迷が長期化するのに伴い、企業収益が大幅に悪化している。とりわけ、造船・海運業では収益の低迷が顕著であり、一部企業では政府系銀行を中心とした債権団の管理下で債務再編が進められている。その一方、支援を行う政府系銀行では不良債権比率が上昇している。これを受けて、政府は韓国銀行を中心とした約11兆ウォンの資本拡充ファンドを創設したほか、自己資本比率が低下している銀行への公企業株式の現物出資、構造調整に伴うリストラへの対応としての雇用支援、等の対策を打ち出した。8月には事業再編を促進する企業活力向上特別法が施行されるが、政府主導により確実な推進がなされるか今後の動向に注目する必要がある。



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。